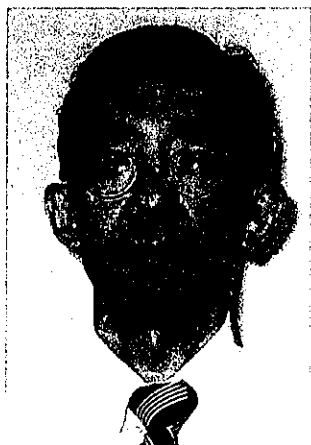


Japan Nurses' Health Study 中間報告



Japan Nurses' Health Study の 研究成果について 2004 年報告

群馬大学医学部保健学科医療基礎学 教授

林 邦彦

昭和55年 東京大学医学部保健学科卒業
山之内製薬株式会社臨床統計部
平成2年 ハーバード大学公衆衛生学客員研究員
平成8年 群馬大学医学部保健学科助教授
平成13年 群馬大学医学部保健学科教授

(研究の目的)

Japan Nurses' Health Study (女性の生活習慣と健康に関する疫学研究：日本ナース・ヘルス研究) は、全国の女性看護師を対象とした前向き大規模コホート研究である。この研究は、わが国の女性における生活習慣・保健医療習慣の実態や、特に写真付薬剤リストを利用した女性ホルモン剤の利用実態の把握を、短期的な目的とし、また、10年間の追跡継続調査によって、各種生活習慣の健康への影響の評価や、女性ホルモン剤など女性が利用する薬剤の長期利用にかかわる有効性と安全性の評価を、長期的な目的としている。

(研究の背景)

女性を対象とした大規模コホート研究として、欧米では、Nurses' Health Study (NHS), Women's Health Initiative Study (WHI) - Observational, Million Women Study (MWS) などがあり、女性の健康問題について数多くのエビデンスを提供している。しかし、ホルモン補充療法の使用実態や影響の程度についても、対象集団間で大きく異なることが報告されるなど、今後、欧米諸国とは生活習慣・身体状況が大きく異なるわが国女性での評価結果が注目されている。

(対象募集状況)

①1999年の群馬パイロット調査研究では、ベースライン調査に1,748人から回答を得た。②日本看護協会、47都道府県看護協会、母性看護グループ、全国保健師長会、日本更年期医学会の協力を得て、2001年11月から実施した全国第一次募集では、39,028人からベースライン調査有効回答を得た。また、③2002年12月から実施した全国第二次募集では、5,274人から有効回答を得た。

これらベースライン調査回答者のうち、10年継続調査への同意参加者は、現在まで、累積約15,000人となっている。④本年4月からは、目標50,000人コホートに向けて第三次募集を継続しておこなっ

ている。

(ホルモン補充療法利用状況)

WHI 報告前の第一次募集では、ホルモン補充療法利用歴(薬剤種類不明例を含む)は、40 歳代後半で 4.5%、50 歳代前半で 9.1%、50 歳代後半で 11.3% であったのに対し、WHI 報告後の第二次募集では、40 歳代後半で 4.5%、50 歳代前半で 11.1%、50 歳代後半で 16.9% と利用経験者割合に減少はなかった。一方、現使用者では、第一次募集の 40 歳代後半で 2.4%、50 歳代前半で 4.7%、50 歳代後半で 7.1% であったのに対し、WHI 報告後の第二次募集の 40 歳代後半で 1.7%、50 歳代前半で 3.4%、50 歳代後半で 6.5% と若干少なかったが、米国で報告された WHI 前約 30% から WHI 後 10 数%への半減といった利用者割合の急激な減少はみられなかった。